

2003年9月2日

NEDOが実施する省エネルギーの共同研究を受託

住友化学、富士石油株式会社および千代田化工建設株式会社の3社は、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が実施する「エネルギー使用合理化技術戦略的開発」事業について、平成15年度公募の「実証フェーズ」への提案を行い、このたび共同研究として受託することになりました。

近年、一つの工場での省エネルギーは既に限界に達していると言われております。NEDOはこの限界を超えるため、コンビナート内の複数工場で熱エネルギーを共有することに着目し、千葉地域で「ピンチテクノロジーによる工場地域のエネルギー共有技術の研究開発」を実施しました。その結果、今まで空气中に逃がしていた排熱（低位熱エネルギー）を回収・共有し、さらに電力回収を併用すれば、原油換算で年間数万トン単位での省エネルギーを達成し、CO₂削減に大きく寄与することが熱力学的に確認されています。

今回3社が受託した共同研究は、以下の要素技術を開発し、単一工場での枠を超えた大幅な省エネルギーを達成しようとするものです。

- (1) 複数工場間の低位熱エネルギーの回収・共有の技術開発
- (2) 複数工場間の最適省エネルギー運転ガイドを提供する統合エネルギー監視システムの技術開発
- (3) 低位熱エネルギーからの高効率電力回収システムの技術開発

住友化学は、製品の全ライフサイクルにわたって「環境・安全・健康」を確保する事業者による自主的活動である「レスポンシブル・ケア」を経営の重要な柱の一つに位置付けていますが、今後とも、省エネルギーや環境の保全に多面的かつグローバルに取り組みながら、積極的な事業運営を進めていく考えです。